

基本目標 5 市民参加と広域連携【環境にやさしい行動を実践するまち】

地球温暖化の防止や自然環境の保全を推進していくためには、市はもとより、市民、事業者がそれぞれの役割を認識し、互いに連携しながら継続的に取り組みをすすめていく必要があり、そのためには様々な方に日常生活や日頃の活動の中から「環境配慮行動」を実践していくことや、十勝全体で取り組みをすすめていくことにより【環境にやさしい行動を実践するまち】を目指します。

環境指標項目	現状値 データ年度	目標値
清掃ボランティア (エコフレンズ)登録者数	3,940人 2018(平成30)年度	4,050人 2029(令和11)年度
出前環境教室参加人数(累計)	24,742人 2018(平成30)年度	42,342人 2029(令和11)年度

基本施策【5-1】 環境配慮行動の実践

【清掃活動】

帯広市において、「自分たちのまちは自分たちの手で美しく」という共通認識のもと、地域住民や地元企業の力を原動力とし、行政がサポートする「まち美化サポート事業」を実施しており、「クリーン・キャンパス・21」や「エコフレンズ」の活動を推進しています。また、帯広市町内会連合会が主催する「全市一斉河川清掃」の実施を支援しています。



クリーン・キャンパス・21 全体清掃

【環境に関する市民交流】

多くの市民が幅広く、多様な環境に関する問題や互いの活動の内容を知り、環境活動への参加につなげていくことを目的として、2002(平成14)年度より、とまち・市民「環境交流会」を開催しています。

環境をテーマに活動している団体や学生、事業者、行政などによる「環境」に関する展示や、省エネルギー機器やエコカーの展示・試乗体験などのほか、各団体の活動報告などを行っており、多くの来場者が訪れるイベントとして定着しています。



とまち・市民「環境交流会」の様子

【COOL CHOICEの推進】

脱炭素社会づくりに貢献する「製品の買い換え」、「サービスの利用」、「ライフスタイルの選択」などの地球温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を促すため推進している国民運動を「COOL CHOICE」といいます。

家庭部門及び運輸部門からの温室効果ガスの排出割合が大きい帯広市においては、市民や事業者の積極的な環境配慮行動が重要なことから、広報や省エネ啓発チラシ等により、情報発信を行っています。

【環境にやさしい活動実践校】

自らの生活行動と、地球や地域の環境との関わりについて考え、身近なところから環境保全に向けた具体的な活動を行っている学校を「環境にやさしい活動実践校」として、市内の市立小中学校・高校の全41校が認定されており、支援を行っています。

【環境教育】

帯広市では、市民が環境に関心を持ち、環境問題に対して自ら実践することができる対策について学び、具体的な行動に結び付けるきっかけとなるよう、出前環境教室を実施しています。

特に、市内の小中学校・市立高校に対しては、庁内の様々な部署が児童・生徒に提供できる出前講座や民間企業と連携した講座等を集約したプログラム集を配布し活用を呼び掛けています。

また、児童・生徒だけでなく、市民や町内会などの団体に対しても環境問題についての普及啓発を実施しています。

地球温暖化をはじめとした環境問題は、市民一人ひとりが高い意識を持ち、日常生活の中で様々な行動を実践していかなければ解決することはできません。このため、多くの市民に環境問題を知り、考え、行動してもらうための取り組みを行うことが必要です。

＜今後の取り組み＞

○清掃ボランティアと協働し、取り組みを実施します

- ・市民や事業者と協働で「どこよりも美しいまち」を目指すため、参加企業が清掃活動を行う「クリーン・キャンパス・21」及び個人が清掃活動を行う「エコフレンズ」のまち美化サポート事業や全市一斉河川清掃などの活動を支援します。

○環境に関する市民交流の場を提供します

- ・多くの市民が幅広く、多様な環境に関する問題や互いの活動内容を知り、環境活動の輪を広げていくため、とまち・市民「環境交流会」等の市民交流の場を市民や事業者・市が協働で提供します。

○COOL CHOICEの普及に取り組みます

- ・家庭部門などからの温室効果ガス排出量削減のため、「COOL CHOICE」を普及し、環境配慮行動の実践を促進します。

○環境にやさしい活動実践校への支援を行います

- ・学校から、家庭や地域へと環境保全意識や活動が拡大していくよう、環境にやさしい活動実践校への支援を行います。

○出前環境教室など環境教育を実施します

- ・環境問題と自分たちの生活行動には密接な関係があること、自ら実践することができる様々な対策があることなどへの認識を深め、具体的な行動に結び付けるため出前環境教室などの環境教育をすすめます。

基本施策【5-2】 広域連携の推進

【十勝バイオマス産業都市構想】

十勝管内 19 市町村は、2013(平成 25)年に 7 府省から地域のバイオマスを活用した産業創出と地域循環型のエネルギーの強化を目指す「バイオマス産業都市」に選定されました。

大規模畑作・畜産業が展開されている十勝に賦存する豊富で多様なバイオマスを活用し、地域循環型社会の形成や自立・分散型エネルギー供給システムの構築、低炭素社会の実現に向けた取り組みをすすめてきており、2019(平成 31)年 2 月に農林水産省から構想の変更が承認され、2019(平成 31)年 4 月からは新たな構想が始まっています。

【十勝定住自立圏構想】

「十勝定住自立圏構想」の環境分野においては、「地球温暖化の防止に向けた低炭素社会の構築」を目指し、環境意識の啓発や再生可能エネルギー・省エネルギー機器の導入促進について、連携したイベントの開催や、圏域における先進事例の視察などにより情報を共有するなど、広域連携での取り組みを行っています。

【JICAとの連携】

帯広市には、JICA北海道センター（帯広）が設置されており、東北北海道における国際協力の拠点として事業を展開しています。JICA北海道センター（帯広）では、開発途上国から、年間を通して数百名の研修員を受け入れており、各研修員は行政、環境、農林水産業等に関する研修コースにおいて、専門知識や技術を習得しています。

2018(平成 30)年度末までに受け入れた海外からの研修員は 6,493 名にのぼり、帯広市は、環境に関する研修コースを通して、環境行政や環境モデル都市としての取り組みを世界に発信しています。

十勝管内 19 市町村はそれぞれの行政区を単位としてまちづくりをすすめています。近年は住民活動の範囲が広がっていることから環境面における行政施策などについて、広域連携により取り組みをすすめ、十勝・帯広の環境に配慮した地域づくりと住民に対する環境意識の啓発を効果的かつ効率的にすすめていく必要があります。

＜今後の取り組み＞

○十勝バイオマス産業都市構想を推進します

- ・大規模畑作、畜産業が展開されている十勝に賦存する豊富で多様なバイオマスを活用し、地域循環型社会の形成や自立分散型エネルギー供給システムの構築、低炭素社会の実現に向け、十勝 19 市町村の連携により、持続的な地域経済を確立し、個性と魅力ある地域社会の形成を図ります。

○十勝 19 市町村が連携し、地球温暖化対策などに取り組みます

- ・帯広市だけでなく、十勝定住自立圏構想の枠組みを活用するなど、十勝管内 19 市町村が連携した地球温暖化対策などの取り組みをすすめます。

○JICAと連携し、帯広市の環境保全の取り組みを世界へ発信します

- ・年間を通して海外からの研修員が多く訪れる JICA北海道センター(帯広)と連携し、帯広市がすすめる地球温暖化対策などの取り組みについて、各国からの研修員を通じ世界へ発信します。